

立体スイカ（促成）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
立 体 (促 成)												
主な作業	収 穫 播 種 接 木 定 植 交 摘 種 木 植 配 心											

技 術 体 系

1 作型の特徴

栽培期間が、低温少日照下栽培であるため、連棟ハウスを用いた暖房機とカーテンを設置することにより温度を確保し、着果・果実肥大の促進に努める。

2 適応地域

平坦地域

3 栽培条件

高温・多日照・乾燥を好み、生育の適温は昼温 25 ～ 28℃、夜温 18 ～ 28℃、地温 23 ～ 25℃である。

4 施設装備

- (1)連棟ハウス
- (2)内張りカーテン
- (3)暖房機機

5 経営目標

- (1)収量 3.5t/10a
- (2)投下労働時間 250 時間/10a
- (3)所得率 35 %
- (4)経営規模 40a
(家族労働力 2 人の場合)

栽 培 技 術

1 品種と特性

栽培期間が低温少日照条件へと向かう作型のため、低温伸長性があり、雌花着生及び着果に優れ、かつ立体栽培のため草勢がやや強い品種を用いる。

「ひとりじめ7」

低温着果性に優れ栽培しやすい。強いシャリ質と高糖度で食味にも優れている。

果実は、腰高の円球形で、2. 0 ～ 2. 5 kg、果皮は縞皮で薄いが、比較的硬めで裂果、裂皮が少ない。肉色は濃い鮮紅色で糖度は13 ～ 14 %以上である。

肥沃地の多肥栽培はつるボケの危険があるので、基肥の窒素は少なく、追肥で加減する。

2 育苗

- (1)播種期： 1 1 月上旬～ 11 月下旬
- (2)播種量： 2,000 粒/10a
- (3)育苗期間

育苗は 9cm ポリポットを用い、接ぎ木を行い、播種後 40 ～ 45 日目に本葉 3 ～ 4 枚で定植する。

3 施肥

施 肥 量				(kg/10a)
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	
基 肥	1			全量基肥
	2	14. 4	4. 8	

注①リン酸吸収係数の高い圃場では、別にリン酸を施す。

②果菜類の連作圃場では、土壌分析を行い、施肥量を加減する。

4 定植

(1) 定植時期

本葉3～4枚時の若苗定植する。本圃は定植準備を早めに終わり十分に地温を上げておく（地温15℃以上）、定植は晴天日に行い苗には十分灌水しておく。

(2) 栽植様式

仕立て	畦幅 (m)	株間 (cm)	10a 当り 株数 (株)
1本仕立て	1.8～2.0	30～35	1500 前後

5 定植後の管理

(1) 温度管理

定植後は数日間高温気味（38℃以内）し、活着を促進させる。活着後は夜温13℃を目標に管理し、ゆっくり充実した根、つるをつくる。立体栽培はトンネルによる保温ができないため、暖房機とカーテンの開閉により夜温の確保に努める。

(2) 水管理

活着後はできるだけ根を張らせるように灌水を控えるが、極端な節水管理による草勢低下に注意する。地這い栽培よりやや強めの草勢になるように管理する。

(3) 整枝と誘引

不要な子づるは早めに除去し、草勢が低下しないようにする。

着果節位は草勢により異なるが、親づるの25節前後、の4番果を目安とし、マルチから50～70cmの高さで4番花が咲くように誘引する。

6 交配期の管理

交配は、人工交配を基本とし一斉着果に心がける。

この時期の温度管理には特に注意して、1週間前より変温管理を行い、開約、子房肥大を促進する。夜温は最低気温18℃以上を確保する。日中の、ハウス内の気温がカーテンで確保できない場合は、20℃を目安に加温する。昼温は、高温にならないよう28～30℃で換気する。

7 果実肥大期の管理

(1) 摘心と玉つり

着果確認後、親づるを摘心する。摘心は、着果節位の上に10葉前後残し、草勢が弱い場合は遊びづるを1本残す。

果径が7～8cmになったら、ひもか網を使って上方の横に張ったワイヤーに吊す。

(2) 温度管理

着果後約1週間は果実肥大を促進するため日中35℃前後、最低気温18℃確保を目標とする。

(3) 水管理

着果確認後すぐに灌水を行い、着果後20日頃までは土壌水分を多めにする。（最低気温13℃を目標に行う。）

8 成熟期から収穫期の管理

(1) 温度管理

目標管理温度は28～30℃とし、晴天日には高温にならないよう換気に努めるとともに、日中の気温が20℃を下回るときは加温する。

(2) 収穫期の判定

収穫の目安は、4月収穫が開花から41～46日前後を目安に音の抜けたものから収穫を行い、果梗のアンテナを残してT字型にして収穫する。アンテナは変色し易いのでさわらない。